

氏名(本籍)	須山 聡 (富山県)
学位の種類	博士(理学)
学位記番号	博乙第1,071号
学位授与年月日	平成7年3月23日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
審査研究科	地球科学研究科
学位論文題目	A Geographical Study of Continuance and Development of Traditional Industry : The Regional Bases of <i>Shikki</i> Industry in Wajima, Ishikawa Prefecture, Japan (在来工業の存続・発展の地域的基盤に関する地理学的研究—石川県輪島市における漆器業の事例—)
主査	筑波大学教授 理学博士 高橋伸夫
副査	筑波大学教授 理学博士 奥野隆史
副査	筑波大学教授 理学博士 佐々木博
副査	筑波大学教授 理学博士 斎藤功
副査	筑波大学助教授 理学博士 田林明

論文の要旨

本研究は石川県輪島市における漆器業を事例に、伝統的な生産技術を維持したまま存続・発展した
在来工業地域の地域的基盤を解明することを目的とする。従来¹の在来工業研究は、在来工業の生産構
造の解明に焦点を当て、在来工業と地域の関係を解明することには消極的であった。またこれらの研
究は、技術革新に伴う在来工業の変化を扱い、伝統的²生産技術を存続させている在来工業地域の研究
は少数であった。

本研究の分析視角として、生産流通機構・労働力の再生産・社会経済的土地条件を取り上げる。生
産流通機構の分析は工業の、社会経済的土地条件は地域の側面からの分析であり、労働力の再生産は
両者を結合する分析と位置づけられる。

生産流通機構の分析の結果、髹漆工程の外注依存による生産性の向上、販売経路の多様化による新
規顧客の獲得が明らかになった。これらは1960年代における高級品需要の増大への対応であり、輪島
漆器業における生産流通機構の再編成である。

労働力の再生産を職人のライフパスから分析した結果、1960年代において職人の再生産システムで
ある徒弟制が、家業継承者を対象とする単純再生産から新規参入者を対象とする拡大再生産へと変質
したことが明らかになった。さらに家業継承者が中心地域に滞留し、新規参入者は中心地域で修業し

た後に周辺・外縁地域へ拡散する地域的移動パターンを有することが明らかになった。

社会経済的土地条件の分析からは、中心地域には安価で適当な規模の住宅が存在し、資金の蓄積に乏しい若い職人の独立を保証するインキュベータとして機能していること、周辺地域には良好な環境を備えた住宅地が造成され、資金を蓄積した職人が中心地域から転入してくること、の2点が明らかになった。

結論として、近代化を遂げなかった在来工業が存続・発展する地域的基盤として、①生産流通機構の再編成による流通の多様化と外注化による生産の効率化、②伝統的生産技能を有する熟練労働力の再生産システムの存在、③関連事業所の集積地域内において新規独立を支援するインキュベータと、周辺地域における良好な住宅地域の存在があげられる。

審 査 の 要 旨

本研究は生産技術の近代化を遂げなかった在来工業の存立基盤を、生産流通機構・労働力の再生産・社会経済的土地条件の3点から、詳細な現地調査に基づいて解明したものである。

その結果、在来工業地域が技術革新を経ることなく存続・発展するためには、生産流通機構の再編成による生産の効率化と販路の多様化、伝統的生産技能を有する労働力の再生産システム、新規独立を支援するインキュベータの存在が地域的基盤として必要なことが明らかになった。

生産構造研究に偏りがちな在来工業研究のなかで、本研究は地域と工業の関係という視点を導入した点、および近代化を遂げない地域の存立基盤に着眼した点において工業地理学の研究業績の中でも先端的研究として位置づけられる。また本研究で明らかになった地域的基盤は、広く日本全国の在来工業地域にも当てはまる普遍性を持つものとして高く評価できる。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。